

佐井村まち・ひと・しごと創生総合戦略会議について

5月27日(水)、津軽海峡文化館「アルサス」しおさいホールで第3回目の『佐井村まち・ひと・しごと創生総合戦略会議』を行いました。

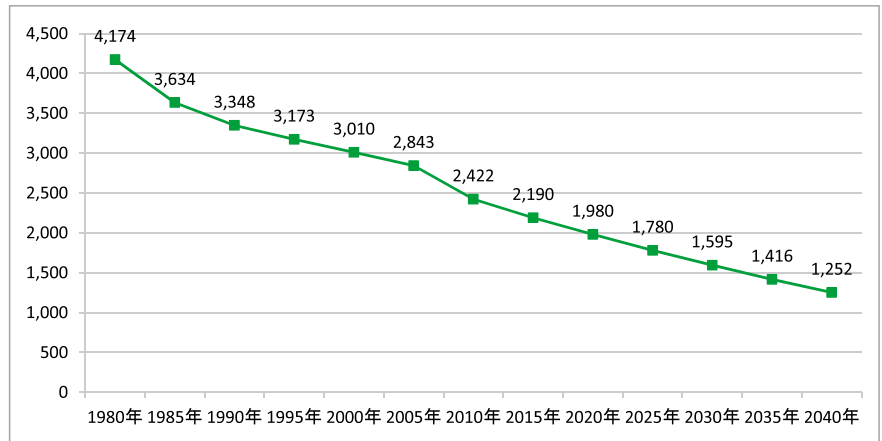
今回の会議では、今後の佐井村の人口の推移について話しました。

佐井村の総人口の推移は、1955年(昭和30年)の5,642人をピークに人口が減少に転じ、それ以降、現在まで減少傾向にあります。

国立社会・人口問題研究所(以下「社人研」という)の推計によれば、今後も人口は減少を続け、2040年(平成52年)には、1,253人(現在から約55%減少)になるものと推計されています。

(図1 総人口の推移)

(図1 総人口の推移)



今の佐井村では、総人口の推移と同様に生産年齢人口(15~64歳)も減少が続いています。年少人口(0~14歳)も総人口の推移同様に減少が続いており、1990年(平成2年)代には、老年人口(65歳~)を下回りました。

一方、老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均余命が延びたことから、一貫して増加を続けていますが、2025年(平成37年)代から減少に転じると推計されています。

さまざまな資料を参考に今後の佐井村の人口を考えた際、2040年には約1,150人から1,250人と仮定されており、現在の人口より約1,000人減少する見込みです。(5月31日現在:2,270人)

この結果を基に、佐井村が人口減少に対する取り組みを行った場合についてシュミレーションしたグラフが次の図2になります。今回は2030年までに合計特殊出生率(人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子どもの平均数)が2.10に上昇し、純移動率(転出、転入で表す割合)がゼロで推移(転出も転入もあるが、だいたい同じ数で動く場合)と仮定したグラフです。

出生率が上昇し、かつ人口移動が均衡した場合には、2040年に総人口が1,533人と推計されます。人口は減少しますが、それでも効果として280人になります。これまでの佐井村の人口推移から、将来の人口について予想がたてられます。

日本としても、2008年をピークとして人口減少時代へ突入し、今後一貫して人口が減少し続けると推計されています。そのため、どの自治体においても、特に、地方の自治体において重大な問題となっています。このことに対する取り組みについて、『佐井村まち・ひと・しごと創生総合戦略会議』では、今後も話し合いを行います。

(図2 社人研推計をベースに、合計特殊出生率が2030年までに2.10に上昇し、純移動率がゼロで推移すると仮定)

